

3 梨花の里保育園(福島県 いわき市)

1. 実施状況

(1) 子育てサークル支援

保育者	現職の保育士 2 名		
場 所	梨花の里保育園 ゆめほーる		
日時および内容	8 月 19 日 10 時より	シャワーボックスの作製	(7 人)
	9 月 16 日 10 時より	人形の作製	(8 人)
	10 月 21 日 10 時より	ボーリング遊び	(7 人)
	11 月 18 日 10 時より	木の実のシェードの作製	(8 人)
	12 月 16 日 10 時より	マラカスの作製	(8 人)

(2) 園庭開放

保育者	現職の保育士 2 名		
場 所	梨花の里保育園 園庭		
日時および内容	8 月 5 日 10 時より	遊具で遊ぶ	(6 人)
	9 月 2 日 10 時より	遊具で遊ぶ	(5 人)
	10 月 7 日 10 時より	ボール遊び	(3 人)
	11 月 4 日 10 時より	ボール遊び	(4 人)
	12 月 9 日 10 時より	なわとび遊び	(5 人)

(3) 保育園行事への参加

保育者	現職の保育士 2 名		
場 所	梨花の里保育園 ゆめほーる		
日時および内容	7 月 29 日 15 時より	夏祭り	(26 人)
	9 月 15 日 8 時より	運動会	(23 人)
	12 月 2 日 13 時より	人形劇観劇	(25 人)
	12 月 17 日 9 時より	お遊戯会	(25 人)

2. 考察と展望

当園では平成 10 年度より地域子育て支援センター事業に取り組み、子育て相談や子育てサー

クルの支援等を行ってきました。この度、「平成 12 年度保育所の子育て支援活動に関する調査研究事業」として子育てサークルへの保育士の派遣や、園庭開放、保育園行事への地域の一般家庭の親子の参加等を実施しました。

(1) 子育てサークル支援

前年度までは子育てサークル支援としては、サークル活動の場所の提供が主になっていました。担当の職員は代表者の方との連絡や日程調整等を行い、当日は参加者の子どもを保育したり、サークル活動の前後に子育て相談を行いました。今年度になって、「くらふとひろば」というサークルでおもちゃ等の製作を指導されていた方の都合がつかなくなり、年度当初は「くらふとひろば」は活動することは出来ないでいました。そこで、保育園の保育士が「くらふとひろば」の内容の企画や製作の指導を行うことにし、以前の参加者の方に連絡をしたり、お知らせを配布したりして 8 月から活動を行いました。

初めのうちは、前年度からのメンバーの方の参加がほとんどでしたが 3 回目ごろから、新しい方からの問い合わせがあったり、新しい方が来るようになりました。しかし、開催が毎月第 3 土曜日の午前中だったためか、用事のある方も多く参加者の人数は毎回 7～8 人という状況でした。そこで、製作するものについてのメンバーの方々の希望を聞いたり開催日を調整するようにしたところ、1 月以降は参加者が増加する見込みとなりました。

保育士は毎回 2 名で担当して、一人が参加者の指導を行い、もう一人は主に参加者の子どもの保育を行うようにしました。そして、製作したおもちゃで子どもと一緒に遊ぶようにして参加者同士や保育者との交流を図ったり、活動後に保護者の方と保育士が子育てについて話し合う時間を設けるようにしました。

子育てサークルの活動内容についてメンバーの方々に企画していただき、地域子育て支援センター(保育園)が場所の提供や保育等の支援を行っていくことが良いのですが、サークル活動には参加したくても企画等まで出来ないという方も多くいます。また、メンバーの入れ替わりによって連絡がうまくいかなかったりして、保護者の方たちだけでサークル活動を継続していくのは難しい状態になっています。担当の保育士とサークルの代表の方との連絡を密にし、時には保育士が企画や運営に積極的に関わって、地域の子育て中の方たちの交流の場を確保していくことが必要であると思います。

(2) 園庭開放

地域の子育て中の方々がもっと気楽に保育園を訪れてくれればと思い、園庭開放を行いました。子育てサークルと同様に、案内を作り支所や公民館に置かせていただき地域の方々にお知らせしました。公園で遊ぶような感覚で来ていただければと思ったのですが、保育園が住宅地の外れのほうに位置していることや、園庭が園舎の陰になっていて様子がわからないこともあってか、来園される人数は予想を大幅に下回りました。来園者は近所の徒歩で来られる方や、一時保育を希望されていたり、来年度の入園を希望しているという方がほとんどでした。

保育士は、保護者の対応と子どもの保育を分けてできるようにと 2 名で担当しました。初めは対応の仕方も分からなかったために、とにかく園庭の遊具で自由に遊んでもらうことにしました。しかし、遊具で遊ぶだけでは、子ども同士の関わりも少なく、保護者の方たちも保育者と話をするだけになってしまいました。そこで 3 回目からは来園した子どもたちが皆で出来るような遊びを用意することにしました。ところがその日(連休初日)の来園者は 3 人と極端に少なく結局親子と一緒に遊ぶことにしました。ボール遊びの後子どもたちは広い園庭を駆け回ったり、坂を転がって遊んだりと元気に過ごしていました。

今年度は、在園児の少ないときということで第 1 土曜日の午前中に行ったのですが、保護者の方の希望の日を聞いてから実施しても良かったと思います。また、来園する子どもの年齢が 3 歳ぐらいなので、3 歳児のクラスとの交流を計画しても良かったと思いました。来園者が少なく残念ではありましたが、何回か来園した保護者の方とは保育者も話をしたりして、子どもも保護者も慣れてきました。今後も園庭開放を続けていけば地域の方との交流も深まり、また違った形に発展させていくことが出来ると考えています。

(3) 保育園行事への参加

以前から在園児の保護者の方から、保育園等には通っていない子どもやその保護者が保育園の行事に参加することは出来ないかとのお話がありました。夏祭りや運動会には卒園児が参加していましたが、在園児や卒園児以外の子どもが保育園の行事に参加することはありませんでした。今回、保育園の保護者会にも協力をお願いして、在園児以外の方にも夏祭りや運動会等に参加していただきました。今回は参加対象を 2 歳児、3 歳児クラスの保護者の方の友人知人で同年齢のお子さんのいる方にして、お知らせを配布しました。

どの行事の際にも参加者の方には在園児と一緒に行動するようにしていただき、対応は各クラスの担任の保育士が行いました。しかし、行事の時には保育園の職員にはそれぞれ役割があり、実際には、在園児の保護者の方に全てお願いするような状態でした。

参加した保護者の方々からは、「保育園のなかの様子がみられて良かった」とか、「2 歳児でも色々なことが出来て保育園にも楽しく通うことが出来ることが分かった」といった感想が寄せられました。直接保育士と接することは少なかったのですが、子育てサークルや一時保育についての問い合わせが増えたりして、保育園をいくらかでも身近な存在に感じていただくことが出来たのではないかと思います。職員の体制作りや予算の面での課題が多く、全ての行事に全ての希望者を受け入れることは難しいと思いますが、今回の取り組みを基にして、これからも地域の子育て中の方たちとの交流を図っていきたいと考えています。

今回の事業に取り組むことによって、地域子育て支援センターの必要性を改めて認識しました。これまでは小規模型で 1 名の担当で、主に子育て相談とサークル支援、育児講座(講演会)を実施してきました。子育て相談においては、電話によるものは一般的な相談ですが、来園されての相談になると一時保育や入園についての相談になってしまいました。これはセンターの存在や

役割がまだ十分理解されておらず、センターと保育園は同じものと考えている人が多いためだと考えられます。子育てサークルについても当初は積極的に活動していてもメンバーが入れ替わるにつれて縮小されてしまいました。地域の方だけでなく担当者も企画や運営に参加することが必要だと思います。

当園のまわりは市内でも保育需要の大きい地域の一つで、どうしても入園する子どもの対応に追われてしまいがちです。しかし、今回の事業によって地域の子育て中の方がたくさんいて、支援センターの相談等の事業を必要としていることが分かりました。在園児のための活動だけでなく、地域の子どもたちのための活動にも積極的に取り組んでいかなければならないと思います。人や場所の問題や財政面での課題はありますが、これからも色々と工夫しながら地域のニーズに対応していきたいと思います。